

血	・ 精/営気/津液で構成される 血＝営気＋津液 ・ 血脈中を流れる赤色の液体で豊富な栄養分を有す ・ 臓腑や組織を栄養し、精神活動・生理活動の基盤となる ・ 気の推动作用を受けて循環
---	--

精からの化生	・ 腎精から必要に応じて補充 ＝ 精血同源	血の作用	① 滋養 ・ 組織・器官を栄養 ・ 顔色、皮膚、毛髪、筋肉、感覚、運動に関与 ② 神の維持 ・ 精神、意識、思惟活動に関与	血の運行	推動と促進	・ 心 の機能で拍出 【主血】 ・ 肺 の 宗気 で推動 ・ 肝 の 【疏泄】 で肺を補助
飲食物からの化生	・ 飲食物を脾胃で消化吸收 →水穀の精微 （後天の精） →心と肺の補助を受けて血に化生 ・ 脾は気血生成の源				固摂と制御	・ 気の固摂作用で漏れ出さない ＝ 脾 の 【統血】 ・ 肝 が血流量を調節

血の病理	証	原因	症状
	血虚	・ 血の不足 ・滋養作用の減退 ・ 脾の機能低下・飲食摂取不足・過労 ・ 外傷/手術/出産等による血の消耗	■ 血不足 ：眩暈・顔面蒼白 【月経痛・経色淡白・経少】 ■ 心血不足 ：動悸・ 不眠 ・健忘・多夢 ■ 肝血不足 ：しびれ・痙攣・目のかすみ・視力減退・爪変形
	血瘀	・ 血の運行失調 ・寒熱の侵襲や内生 ・ 気虚、気滯（推动作用低下↓） ・ 血虚（血流量減少）・痰湿・外傷	■ 固定痛・刺痛 ■腫張・腫塊 ■シミ・色素沈着 ■ 肌膚甲錯(絞肌) ■ 紫舌・暗紅舌・瘀斑・瘀点・皮下出血班 ■月経痛・血塊
	血熱	・ 熱の影響 (暑邪・火邪) ・ 過剰な情志変化・辛/鹹/濃い味の過食	■ 熱の鬱積 ：発熱・発赤・発疹・痒み ■ 血運行の乱れ ：出血・内出血 ※ 推動促進↑ ■ 陰液の損傷 ：潮熱・五心燔熱・盗汗・口渴 ■ 心神への影響 ：心煩・不眠・精神不安
	血寒	・ 寒の影響（寒邪）・寒性の飲食	■ 手足の厥冷・脈遅・瘀血(滞った血の病理産物)